

安八町名誉町民

渡邊恵進氏ご逝去



やさしい微笑みの渡邊恵進氏

安八郡牧村（現安八町牧）で生まれ、若くして仏法の道を志し、平成9年1月から平成19年1月まで天台宗の最高位である第255世天台宗座主を務められた安八町の名誉町民である渡邊恵進氏（104歳）が11月13日、自宅のある滋賀県大津市でご逝去されました。

生前は、生まれ故郷の安八町に深い愛情を持っておられ、安八園遊会や敬老祝賀会など様々な催しにお越しいただきました。また、亡くなる2週間程前に満104歳のお祝いのため、堀町長ら町関係者をご自宅へ伺った際には、とてもお元気の姿で迎えてくださいました。



卒寿を祝って



安八町の誇り



前小川町長から名誉町民章を受ける
(平成11年6月9日)



贈られた名誉町民章



名誉町民 渡邊恵進氏の肖像画

名誉町民章を受けられた際、ふるさと安八町をこのように語って見えました

私は、農家に生まれ、心豊かで穏やかな地に育ちました。故郷の安八町を離れてから70年あまりが経ちました。目を閉じて振り返ってみると、若い頃に過ごした安八町が昨日のここのように、今でも鮮明に蘇ります。若い頃から仏法の道を志し、修行してまいりましたが、「五穀豊穡と国家の安全を祈るのが私の使命」、「人々が意見の相違を超え、理解と話し合いを深める努力と協力を」と思い、ひたすら修行してきたのに過ぎません。

これから21世紀を担う方、特に、若い方に次の3つの心をもってほしいものです。

- 命あるものを大切にすること
- 年長者を敬う心
- 礼儀正しく行う心

これら3つの心は、いつの時代においても、また、万国共通して言えることだと私は確信しています。

先日、友人・親族に会いに、久しぶりに安八町を訪ねました。70年前と違って、工場・建物・商店がたくさん建っています。けれども「心豊かで穏やかな地・安八町」は以前のままでした。外観は変わっても、人情が変わっていない。私は、ここ安八町をとても誇りに思います。